

■肢体不自由のある子どもたちへの実践事例

2020「光明図書元年」 読書活動の推進 —iPad DAISYの活用

東京都立光明学園
つじ 達 直美

はじめに

今年度新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、全国一斉の臨時休業の措置が取られました。前例のない中で、不安を感じながらも子どもたちの学びの保障に向けて、家庭学習のための教材づくりや、HPの活用・WEB配信など、学校全体で創意工夫して対応しました。

この間に、伊藤忠商事からDAISY図書が入ったiPadを寄贈いただきました。当学園では、学校の経営方針の一つに図書活動の推進を掲げ、認知と言語活動の向上を目指しています。この寄贈は、その活動への追い風となりました。WEB配信では、教員が絵本の読み聞かせを行っていましたが、マルチメディアDAISY図書の劇団員の方々の読み聞かせは、子どもたちに好評でした。本をより身近に感じる機会になりました。

学校の目指す姿

今年度、学校の校訓を「学びの光、前途を照らす」と学校の導きを受けて学び励み、自らを磨くことこそが幸せ

に続く我が道を照らすという願いが込められました。さらに、指導指針を「可能性の追求」とし、教職員には、総力を結集し、学園生個々の可能性を徹底的に追求することが求められています。

「光明図書元年」読書活動の推進

新校舎が本格運用となった2020年を「光明図書元年」とし、読書活動充実事業の研究指定校（3年次）として蔵書整備・貸出機能を強化し、読書活動が定着するように独自の全校プログラムを展開しています。

具体的には、以下の活動を推進しています。

- ① 両部門共用の北棟完成に向け、図書を増やし、図鑑や絵本に触れる機会を創出
- ② 外部専門家による「見て・触れて・聴ける」図書の環境整備
- ③ 図書貸出システムの確立と、家庭持ち帰りの奨励
- ④ 図書館の一層の活用及び団体貸出の導入



肢体不自由の子どもたちの現状と課題

肢体不自由の子どもたちにとって、障害特性から生活体験・社会体験が少ない状況にあると言われます。読書活動を推進することで世界を拓げ、いろいろな事柄への興味・関心や学習への意欲などにつながると考えます。上肢に麻痺などがあり、視覚にも配慮がいる多くの生徒は、本を読むことに困難さを抱える状況があります。学校や家庭生活の中で、本に親しむには支援を要します。いつでも、どこでも本を楽しむことができる環境を整えることが求められています。

その課題を解決する一つが、音声読み上げや読み上げている部分をハイライトで示されるマルチメディアDAISY図書であると考えています。学校内外で読むことの困難さを軽減し、聴く読書から広げる可能性を追求したいところです。

マルチメディアDAISY図書の活用

(1) 目的

読書活動を通して、認知・言語能力の向上を目指す。

- 学んだ力を学校や家庭生活の中で活かすことができる。(余暇活動への広がり)
- 考える力や表現力を身につけることができる。(学習意欲の向上)
- 自分の役割を通して自信をもつことができる。(自己肯定感の向上)

(2) 実践事例「図書館を家に持ち帰ろう」

<対象>

肢体不自由部門全学部児童・生徒

<活用場面>

長期の休業中または週休日の家庭学習

<活用に際しての配慮>

- 子どもたちの実態に応じた本の選択をする。
- 家庭での様子などを連絡ノートなどで伝えてもらう
- iPadの使い方のレクチャーとケースの準備

<活用の様子から>

- いままで読み聞かせなどで家族の支援を要していたが、iPadのマルチメディアDAISY図書を活用することで、一人でも図書を楽しむことができた。
- 家庭の中で、マルチメディアDAISY図書を通じて家族間の話題が広がった。

- ・次にこんな話を読みたいなど、興味・関心が広がったり、こんなことに関心があるのかなど新たな発見があったりする場面が見られた。
- ・話をじっくり聞き、画面を注視することができた。

<成果と課題>

学校だけでなく、家庭で活用していたり機会を試行している。家庭生活での学びは、卒業後の生涯学習へのつながりができるきっかけになっている。さらに貸し出しシステムを構築し推進していくことが課題である。



乗り物シリーズは人気。繰り返し見ている児童生徒もいる



劇団員の方々の読み上げが人気。ハイライトは文字を学ぶ児童生徒に有効

まとめ —ICT教育とGIGAスクール構想から考える

新学習指導要領の改訂をふまえて、教育のICT化が進められています。それに伴いGIGAスクール構想が加速しています。一人1台端末や、家庭でもつながる通信環境の整備はすべての子どもたちの学びの保障を行うことを目指しています。障害のある子どもたちにどのように活用していくのか、一人ひとりの実態に応じた対応が求められます。今回のコロナ禍の中でのWEB配信やICT機器の活用では、これまで以上に効率良い活用の方法を考える機会となりました。

WEB配信での絵本の読み聞かせは、一方向の配信になりがちですが、今後は双方向の配信など授業の工夫を考えることや、機器操作を情報にたけた人に委ねるのではなく、多くの教員が操作できる体制を整える必要があります。

デジタル教科書やデジタル教材の活用も、今後さらに重要なツールになっていくと思います。当校では、デジタル教科書の活用はまだまだ整っていませんが、さまざまなデジタル教材を大型TVやプロジェクターにつなげての活用は広がっている状況です。

今後もこれまでの実践を活かしながら、子どもたちの可能性を追求し、できる環境を整えていきたいと思っています。